

27. 経営管理教育部

II	分析項目ごとの水準の判断	・・・	27-2
	分析項目V	進路・就職の状況	・・・ 27-2

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目V 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点	関係者からの評価
----	----------

(観点に係る状況)平成21年3月に実施した外部評価委員会において、「本教育部が社会人学生に対して十分な教育を行い、社会貢献を果たしているか」との問いに、評価委員7名のうち6名が「ある程度貢献」、1名が「現時点では判断できない。」と回答し、経営管理大学院学生の修了後の活動を追跡し、さらにその活動についての関係者からの評価を収集していく必要性が強調された。

上記の意見に基づき、平成21年度に就職先企業へアンケート調査を行い「採用された修了生を見て、京都大学経営管理大学院の教育内容で、優れていると想像できる項目と不足していると感じられる項目」について意見を求めた。それに対して、経営管理大学院の修了生が企業等に採用されて長くて2年弱ということから、まだ「わからない」という回答が若干あったものの、特に「理論的な教育」「高度な専門分野に関する教育」「研究的教育」「専門的教育」については80%を超える回答者が、「体系的教育」については約67%の回答者が「優れている」と評価している。(添付資料「企業アンケート結果」参照)

逆に「不足している」と指摘された項目としては、「実践的教育」「語学教育」が挙げられる。前者に関しては、企業等でのインターンシップ機会の充実と2年次のワークショップにおいて企業等との連携による実践的知識の増進を図っている。後者に関しては、現在、英語教育のために新しく採用したネイティブの外国人教員による集約的な指導を導入する一方で、世界銀行・アジア開発銀行等と連携した国際インターンシップの実施や、さらに平成23年度の国際コース設置に向けてコース内教育科目全ての英語化など早急な対策を体系的に取っている。

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)修了後の進路状況については、既に「期待される水準にある。」との判断を受けているとおり、就職希望者の90%以上が修了と同時に就職(復職含む)出来ている状況である。さらに、就職先企業へのアンケート調査の結果からも、企業関係者の観点からの経営管理大学院の教育内容に関する質問項目10項目中4項目が80%を超える企業から「優れている」、5項目が「優れている」または「普通である」と判断された。この結果をもって、経営管理大学院の教育内容がおおむね社会が専門職大学院に期待しているものに近いと理解している。なお、一部企業から「不足している」と指摘された一部の項目についても、上述のように対策を講じていることから「期待される水準にある。」と判断した。